

科目名	現代社会論 「現代社会を、自分は、いかに生きるか」		担当教員	加藤次郎		
			担当形態	単独		
テキスト	適宜資料を配布する。	単位数 授業形態	4単位	演習	開講時期	通年
<b>講義概要</b> <b>■到達目標</b> ・現代社会における人と人との関わりが「金銭交換」になっていることに気づき意見が言える。 ・人と人との心を本当につなぐものは「誠意」であることに気づき、表現できる。 ・現代社会の中で、自分は、どう一歩を踏み出すかを考え、実践できること。						
<b>■授業の概要</b> 現代社会は、個人消費の増減によって景気が浮沈する商業（経済）中心の社会となっています。 人々を取り巻く情報環境は、商業メッセージ（CM）に満ち溢れています。CMで視聴者の心をつかんだ企業が商業競争に勝利する時代です。企業にとって、ひとは人である前に“消費者”です。消費者という呼称はひとびとがお客様扱いされている状態を意味しています。 本来、人生の主体者であるべきはずの人間が、客体（お客）扱いされていることに気づく力を失ってしまった世の中を「消費者社会」といいます。「商業中心社会」＝「消費者社会」。 社会の客体（消費者）から、人間としての主体（生・活・者）になることを、目指します。 LIM（Live it myself）。自分を生きるしかない、生活を自分の手に取り戻す、という意味です。 具体的には、生き活きと生活してきた町や村が、崩壊してしまったフクシマの現実を学びます。そして、崩壊によってもたらされた人生の変容に心を寄せて、本来、生活とはどうあるべきかを考えていきます。さらに、さまざまな事情で福祉施設で暮らしている人々が、自分らしく生きようと必死に取り組んでいる現実を、現地に出かけて学び、私たちの主体的生活（自分らしさ）を考えます。						
<b>■授業計画</b> 第1回 私たちは、これから、何を学ぶか 第2回 学外学習（児童施設の子どもたちと一緒に、田植え体験） 第3回 学外学習の振り返り（いま、なぜ、わたしたちは、田植えをするのだろうか？） 第4回 フクシマの人々の暮らしに、私たちは何を学ぶか① 第5回 フクシマの人々の暮らしに、私たちは何を学ぶか② 第6回 フクシマの人々の暮らしに、私たちは何を学ぶか③ 第7回 わたしたちにとって、フクシマとは、何か① 第8回 わたしたちにとって、フクシマとは、何か② 第9回 中間報告会にむけて 第10回 フィールドワーク（施設活動）①の事前学習 第11回 フィールドワーク① 第12回 フィールドワーク①の振り返り 第13回 フィールドワーク（施設活動）②の事前学習 第14回 フィールドワーク② 第15回 フィールドワーク②の振り返り 第16回 フィールドワーク（施設活動）③の事前学習 第17回 フィールドワーク③ 第18回 フィールドワーク③の振り返り 第19回 いま、わたしたちがやるべきことは、なにか 第20回 総論発表会にむけて① 第21回 総論発表会にむけて②						
<b>■準備学習</b> ・授業のテーマに照らして、現代社会を見つめ直し、自分の暮らしを振り返る。						
<b>■評価方法</b> ・授業へ向かう態度（フィールドワーク、教室における討議への積極性など） — 50% ・随時、提出を求めるレポート及び発表 — 50%						
参考文献	随時提示します	特記事項	フィールドワークの交通費の自己負担があります。 <b>【課題等のフィードバック方法】</b> 提出されたレポートは後日内容を共有できるようにプリント等で提示し、コメントを述べます。			
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼保	幼 保 教養科目			